

# 多様性を未来への原動力に

豪州に学ぶ



自治体国際化協会・多文化共生部報告 4

世界中から社会の担い

手として外国人を受け入

れているオーストラリ

ア。民族、言語、宗教な

どが異なる地域から、多

くの人が家族とともに移

住している。移住した家

族は当然ながら家庭内で

は母国語で会話をを行う

このため、家庭で英語以

の言語習得、加えて「生

きる力」の体得につなが

るビクトリア州の取り組

みを紹介する。

子どもが育まれる中

## 子どもの教育

に入学する前に、英語で

行われる授業についてい

けるか試験を受ける。難

しいと判断された場合、

英語を集中的に学ぶた

め、州が運営する語学学

校へ通うことになる。

その二つのコリンウツ

ド英語語学学校では、5

歳から18歳までの子ども

たちが現地校への編入を

目指し、週5日間、1日

5時間の授業を受けてい

る。子どもたちは5段階

の英語レベルに応じたク

ラス分けするが、なるべ

く同年代の子どもが同じ

教室で学べるよう配慮さ

れている。1クラスは多

い場合でも13人程度で、

現地校に編入後も困らな

に移住して間もない子ど

もを対象とするクラスで

は、全く触れたことのない

英語に戸惑いと不安を

隠せない。少し慣れたク

ラスでは、自主的に壁に

貼ってある単語を何度も

練習する姿がけなげに映

る。卒業が近いクラスで

は、英語で映画を見た後、

英語でグループワークす

るなど現地校でも立派に

やっていける様子だ。そ

こでの教師は、「指導者」

というよりも温かく自立

を手助けする「協力者」

のようだ。

子どもたちにとって

「言葉(英語)を話せる」

ことは、まさしくエンパ

ワーメントであり、大き

自信につながる。また、

英語で「コミュニケーション

」を取れるようになる

一方、日本にも外国に

ルーツを持つ子どもは多

い。彼らの日本語教育

「ダイ

バー

シ

ティ

」

と

語

を

身

に

付

け

る

こ

と

「イ

マ

ジ

ョ

ン

」

と

は

「

多

様

性

は

「

生

き

る

力

」

と

は

「

多

様

性

は

「

生

き

る

力

」

と

は

「

多

様

性

は

「

生

き

る

力

」

と

は

「

多

様

性

は

「

生

き

る

力

」

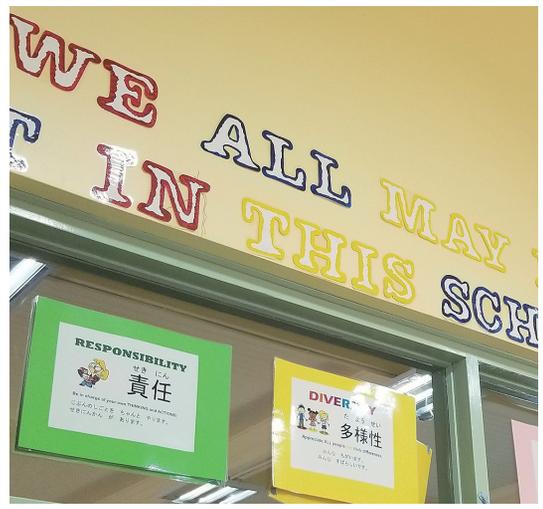
と

は

「

多

様



教室に日英2カ国語併記

だ。1、2年生のクラス

では、算数の四角形や三

角形などの授業が日本語

で行われ、子どもたちは

質問に日本語で答えてい

る。4年生のクラスでは、

2言語の授業で読み・書

き・思考することで認知

能力が伸び、「モノリン

ガル」よりも創造力が育

まれ、多角的なものを見

方が形成されるという。

さらに、子どもたちが2

言語の習得という多様性

を自らのものとして理解

し、「生きる力」をつけ

ていくのである。

生徒数310人の州立

コーフィールド小学校

は、1997年から日本

語と英語での教育を行っ

ている。ビクトリア州の

内にはイマージョン

教育の小学校が12校あ

る。こうした学校で手厚

で、その他の芸術・ダン

スなどの教科も日本語を

の活力を身に付ける子ど

もたちの姿は、未来のグ

ローバル社会を反映して

いる。グローバル化が進

む中、日本で今後どのよ

うな教育を目指すのか、

ヒントとなるだろう。